

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	よつばきっず		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	① 一人ひとりに寄り添った個別支援 五領域を踏まえた個別支援計画を作成し、スモールステップで成功体験を積み重ねられる支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 五領域を意識した個別支援計画の作成 スモールステップで課題を設定し成功体験を重ねる支援 視覚支援や具体物を活用し、理解しやすい環境づくり モニタリングで定期的に見直しを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の意思表示や自己決定をより計画に反映させる 目標達成度を数値や記録で見える化する仕組みづくり ケース検討会を定例化し支援の質の統一を図る
2	② 保護者との丁寧な連携 連絡帳・面談・日々の口頭報告を通じて家庭との情報共有を密に行い、家庭支援も意識している。	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳や送迎時の口頭報告で細やかな情報共有 定期的な面談による支援の振り返り 家庭での困りごとに対する助言や共有 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭で実践できる具体的支援方法の資料提供 アンケート等を活用した満足度の把握 保護者勉強会や情報提供の機会の検討
3	③ 組織的な安全管理体制 虐待防止・身体拘束適正化・感染症対策等の委員会を定期開催し、研修を通して職員の意識向上を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> 虐待防止・身体拘束適正化・感染症対策委員会の定期開催 年間計画に基づく避難訓練の実施 職員間での情報共有・申し送りの徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練内容の実践的なシミュレーション強化 新任職員への継続的フォロー体制の整備 ヒヤリハットの分析と再発防止策の共有強化

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域関係機関との連携が十分とは言えない点	日常支援や送迎業務を優先するため、外部連携の機会が限定的になっている。	① 地域連携の強化 <ul style="list-style-type: none"> 保育園・幼稚園・相談支援専門員との定期的な情報共有の機会を設ける 地域研修や協議会への参加を検討する
2	職員間での支援経験や力量に差がある点	職員構成の変動や経験年数の違いにより、支援の視点や対応力にばらつきが生じやすい。	② 職員育成体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> 内部研修の年間計画作成 ケース検討会の定期開催による支援の標準化
3	業務量が多く、振り返りや分析の時間が十分に確保できない点	記録・保護者対応・委員会活動など業務が多岐にわたり、計画的な振り返り時間が不足しがちである。	③ 業務効率化と振り返り体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> 記録様式の整理・簡素化 役割分担の見直し 月1回の振り返りミーティングの定例化